

## 平成27年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

「夢・発見・実現」を合言葉とし、地域に根ざし、生徒一人ひとりの多様な学びと多様な進路を実現する総合学科高校をめざす。

総合学科高校の特色を活かし、各系列の選択科目での学習を通じて各生徒の興味、関心に応じた幅広い知識、能力、技術を習得させるとともに、全教職員が学校の教育方針に基づいて、キャリア教育、生徒指導、人権教育を密接に連携させてきめ細かい指導、支援を行い、一人ひとりの進路実現をめざす。

- 1 自立した社会人として主体性を持ち、自らの力で学び、考えたことを、自らの言葉で表現できる力を育成する。
- 2 将来に夢と希望を持ちながら自己の具体的なキャリアビジョンを設定し、実現に向け粘り強く努力する力を育成する。
- 3 多様な社会の流れや課題の本質を理解し、高い自尊感情を持ちながら変化の時代を生き抜く力を育成する。
- 4 地域との繋がり人との繋がりを大切にし、互いに助け合い高めあう関係を築くことのできる力を育成する。
- 5 北摂地域初の「中国等帰国生及び外国人生徒入学選抜」実施校として、外国にルーツを持つ生徒の支援と日本人生徒との共生を図る。

## 2 中期的目標

## 1 確かな学力への取り組み

- (1) 柔軟な教育課程を設定できる総合学科高校の特色を生かし、多様な学力実態や興味・関心・進路希望に応じた教育内容を創造する。
    - ア 各系列に設定予定の選択科目については生徒の選択状況や学校教育自己診断の結果等に基づき、既設科目の改廃や新たな科目設置を積極的に実施する。
    - イ エリアの魅力を生かしつつ、学び直しの視点も入れ、生徒の基礎学力の充実と学習意欲の向上を図る。
  - (2) 生徒の学習意欲を向上させるため、全科目で一斉講義式授業からの脱却をめざし、双方向性に富んだ対話と考える時間のある授業づくりを進める。
    - ア Yプロ研修など指導教諭を核として組織的な授業改善を進め、教員間での相互授業見学、相互評価、及び他校教員との交流を含めた研究授業、公開授業を実施する。生徒による授業アンケート等により不断に教員が授業改善に努める。
    - イ 施設実習や国際交流、職業体験など多様な学習機会を地域や保幼小中大との連携を深める中でさらに増やしていく。
- \* 生徒向け学校教育自己診断における授業満足度を平成25年度の67%から平成29年度には75%にする。

## 2 夢を育みその実現に向けた力をつけるキャリア教育の推進

- (1) 「産業社会と人間」「総合的な学習の時間」「課題研究」をキャリア教育の核とし、自分で考え、自分の言葉で表現できる生徒を育成する。
    - ア ドリカムルームを活用したグループ学習等を使い主体的に学ぶ意欲を養い、学ぶ楽しさを知る。
    - イ 多様なモデル像との出会いや体験を通じて将来像を描く中で、自尊感情や社会的有用感に富んだ人間性を育成する。
    - ウ 自分で選んだテーマを研究し、「論文」にまとめプレゼンテーションすることで視野を広げ自分を伝える力を育成する。
- \* 第1志望の大学・専門学校・事業所への進学率・就職率を現在の70%から80%に引き上げる。

## 3 安全で安心な学校づくり

- (1) 人権教育と生徒指導の一層の充実を図る。
    - ア 人権教育と生徒指導の連携を一層充実させることで、すべての生徒が安心して生活できる学校づくりをすすめる。その基盤として自分を大切にするとともに、自立心・規範意識を育てることにより、基本的生活習慣を確立させる。
    - イ 一方、生徒指導上の問題にたいしては、すべての教職員が適切かつ毅然とした指導を行うように指導方法について教職員の共通認識を深め、チームワークを活かして対応する。また、不登校の兆候の見られる生徒や発達障がい等の個別の支援が必要な生徒については、個別の指導計画を作成し、様々な機会にカウンセリングマインドをもって対応し、中学校、保護者や外部の専門機関等と連携しながら状況改善に努める。
    - ウ 中国帰国生徒及び外国人生徒への日本語指導・母語指導の充実を図るとともに、学校全体で多文化共生の取り組みを発展させる。
- \* 具体的目標として、3年間で遅刻件数、懲戒件数、不登校生徒数の10%の減少をめざす。

## 4 地域連携、保幼小中高連携の強化

- (1) 絆づくりと活力あるコミュニティの形成を図る。
  - ア これまで福井高校が培ってきた小中高連携、地域連携のネットワークを一層発展させ地域の保幼小中学校、地域住民にとって敷居の低い「開かれた学校」づくりを推進し、地元根づいた学校づくりを進める。ドリカムルーム等を活用して、地域住民対象の講習会や講座の開催などにも取り組み、地域の一員として双方向的につながってゆく。
  - イ 学校協議会及び学校教育自己診断を活用するなど、保護者や地域住民のニーズを反映した学校改善に取り組む。同時に総合学科高校として学校からの情報発信を積極的に進める。さらに「豊川教育コミュニティネット」の一員として、他校の教職員とのネットワークを一層強化する。

## 5 教職員の組織的・継続的な育成

- (1) ミドルリーダーの育成
  - ア 本校が初任で担任を経験している教員に、担任団の中軸としての役割を与え、次に分掌や委員会の責任ある位置に配置し、ミドルリーダーへと育成を図る。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成27年1月実施分]	学校協議会からの意見
<p>「自分の考えをまとめたり発表する機会がある」「将来の生き方について考える機会がある」は昨年よりもさらにアップしており、ドリカムを中心とした主体的な学びの場の成果が出ている。</p> <p>「悩み」や「困っていること」への対応は以前の50%台から60%台になってはいるが、さらに生徒の表面には出ない現実をしっかりと把握できる力をつけてゆく必要がある。</p>	<p>第1回(7/21) 自転車マナーの指導について、運転教習所とのタイアップなど検討できないか？ 総合学科高校において「調べる⇒選ぶ⇒まとめる⇒発信する」といった活動と長い文章を読み理解する力を養うことも重要。</p> <p>第2回(12/11) 自転車指導を地区の交通安全係と連携してはどうか？</p> <p>第3回(3/22) 自己診断の数値から生徒の先生への信頼度の高さがうかがえ、よくやっておられる。 6月で選挙権を得る生徒もおり、最初の段階で権利行使を促す取り組みをやる必要がある。 部活動の活性化に向けアルバイトの問題を考えるべきではないか。</p>

## 府立福井高等学校

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
確かな学力への取り組み	<p>(1) 多様な学力実態や興味・関心・進路希望に応じた教育内容を創造 ア、各系列を中心とした選択科目・学び直しの科目の内容の充実</p> <p>(2) 双方向性に富んだ対話と考える時間のある授業 ア、全ての科目で一斉講義式のみでの授業からの脱却をめざす。 イ、多様な学習機会の提供</p>	<p>(1) ア、エリアの魅力を生かしながらも、学び直しの視点も入れ、基礎学力の充実と学習意欲の向上を図るべく総合学科推進会議でさらに検討を深める。 (2) ア、指導教諭のみでなく各教科で規範となる授業者を指名し、研究授業や授業見学を行う。 イ、自己申告票の目標設定において授業力の項目で「双方向性」や「考える授業」などの工夫について記述を求める。 ウ、施設実習や国際交流、土曜講座など多様な学習機会を提供し、ゆたかな学びを創造する。</p>	<p>(1) ア、英語・数学の学び直しの内容が充実したものとなるか。 エリア科目の満足度 80%の維持 (2) ア、引き続き規範となる授業者を各教科で指名できるか、またその授業者の授業を全員が見学できるか。 また、授業アンケートの数値を5ポイント以上上げられるか。 イ、自己申告票への「双方向性」や「考える授業」などの工夫についての目標設定がすべての教諭で設定できるか。 ウ、施設実習等 20 回以上の実施(目標生徒数 30 人以上)、韓国へのスタディツアー、予備校講師による土曜講座(今年度 30 名を維持)などが実現でき、生徒の学習意欲が向上するか</p>	<p>(1) 1年生の数学で1学期1単位分を学び直しに当たった。その後の授業がこれまでと違い理解しやすくなっており、授業アンケートの結果、数学全体では 2.94 だが1年生は 3.25 となった。次年度は1年生の英・数・国でプリント教材を使った「学び直し」を行うこととなった。(◎) エリア科目の満足度は 80.3%であった(○) (2) ア、授業アンケートの数値は現状維持であった。(△) (イ) 自己申告票への「双方向性」や「考える授業」などの工夫についての記述はすべての教諭が行い実際の授業場面でもその意識は高まっている。(○) ウ、施設実習は目標通り達成し、土曜講座についても充実した内容となり、学習意欲の向上につながっている。本年度はセンター試験の受験者が大幅に増えた。(○) スタディツアーについては外的要因によって中止せざるを得なかった。(△)</p>
安くて安心な学校づくり	<p>(1) 基本的な生活習慣の確立 ア 授業規律の確立 イ 服装指導の徹底 ウ 遅刻指導の徹底 (2) 自他を大切にできる人権感覚の育成と生徒相談体制の充実 ア 「気づき」「交流」「発信」を重視した人権学習 イ 職員研修の充実 ウ 外部機関との連携 エ 個別の指導計画等 オ 中国帰国生徒・外国人生徒関連</p>	<p>(1) ア 各学年の担任団で授業規律の指導目標とマニュアルを作成し、全教科担当が線をそろえた指導を行う。 イ 制服の着こなしの徹底指導を行う。特に冬のセーターの色やパーカー類など ウ 遅刻指導は朝の挨拶運動やメロディチャイムの活用に加え、学年での放課後指導を強化してゆく。 (2) ア 人権HRをはじめ様々な場面でこの視点での取り組みを進める。 イ 人権保健部主催の職員研修の開催 ウ 精神科医等の指導を受けながらケース会議を行い、教育センターにつなぐことも検討する。 エ 必要に応じて個別の支援計画を作成する。 オ 中国帰国生徒・外国人生徒の日本語・母語指導の充実と多文化共生の取り組みを学校全体で進める。</p>	<p>(1) ア 私語が目立つ授業がないか、授業アンケートでも把握する。 イ 全教員で指導できているか。 ウ 遅刻者の5%減をめざす。 (2) ア 学校教育自己診断での人権に関する項目の数値をアップさせ80以上へ イ 年3回の実施 ウ ケース会議年3回 エ 発達障がいなどの課題を抱えた生徒の「個別の支援計画」を作成し、教科担当を含めチームで指導に当たる。 オ 中国帰国生徒・外国人生徒の学校への定着が図れるか。</p>	<p>(1) ア、授業アンケートからは出てこないが、さらに授業規律を高める必要がある。(△) イ、制服の着こなしはかなり徹底した。(◎) ウ、遅刻者は依然多いが、昨年の 9330 から 8560 と 8%減となった。(○) (2) ア、学校教育自己診断の人権に関する項目の数値は 70%と横ばいであった。(△) イ、人権保健部主催の職員研修は 4 回実施(◎) ウ、ケース会議は 3 回実施し、内容的にも毎回様々なケースについてのグループワークを取り入れるなど充実した。(◎) エ、「個別の支援計画」の作成は広がり、チームでの指導、外部機関との連携などさらに経験を積み力をつけている。(◎) オ、中国帰国生徒・外国人生徒は着実に定着するとともに、様々な外部の取り組みにも参加するなどしっかりと成長している。(◎)</p>
地域連携、保幼小中高連携の強化	<p>(1) 絆づくりと活力あるコミュニティの形成を図る。 ア 地域に根ざした学校づくりの推進 イ 地域、中学校に向けた情報発信 ウ 授業・行事を通じた地域交流</p>	<p>(1) ア ・生徒会、部活動などで地域のイベントへ積極的に参加し、交流を深める。 ・小中学校に出前授業に出向き高校教育への理解を深めてもらう。 ・茨木市人権研究会、豊川教育ネット主催の公開授業や研修に参加する。 ・「福井高校を育てる会」の活性化 新しい入試制度への対応を協議し、夏に中3担任者会を実施する。 ・「福井高カップ」への参加者を増やす。 イ ・総合学科へのリニューアル・一期生の取り組みをHP、説明会など様々な形で地域・中学校に発信する。 ウ ・選択科目での地域交流の実施</p>	<p>(1) ア・学校としての地域のイベントへの参加を 10 回以上にする。 ・5 校以上に前出授業に出向く。 ・研究発表 1 回以上、公開授業や研修への参加者を増やし延べ 50 人以上をめざす。 ・夏の中3担任者会の開催 ・「福井高カップ」への参加者 5% up イ・HPの全面リニューアルや各種説明会の開催、HP閲覧カウンターの 5%増 説明会の中学生等参加者数を今年度の総計 800 人を維持 ウ・選択科目の複数教科で実施し、生徒の気づき等を把握</p>	<p>(1) ア、学校としての地域のイベントへの参加は 10 数回に上り、コスモス(特別枠生徒)も豊川フェスタに参加した。(◎) ・出前授業、進路講演会で 10 校に出かけ、福井高校への理解につなげた。(○) ・大人教三島大会で実践発表を行い、種々の公開授業や研修にも延べ 50 人以上が参加した。(○) ・中3担任者会は旧1学区進路保障協議会での発表が福井高校になったため中止(△) ・福井高カップは体育館の耐震工事のため外部施設を使って実施約 1000 名で現状維持(△) イ・HPはリニューアルを図り、HP閲覧カウンターは 5%増達成予定。学校説明会の参加者は総計 850 人以上と増加した。(◎) ウ・選択科目での地域交流は複数教科で実施でき、生徒も地域の方々との交流で身近な大人の力を再発見している。(○)</p>
人材育成	<p>(1) ミドルリーダーの育成</p>	<p>(1) 本校初任で担任を経験した教員を分掌や委員会の責任ある位置に配置し、ミドルリーダーへと育成していく。その際担任団や分掌・委員会で中軸となる役割を与え、組織運営の観点を育成していく。</p>	<p>(1) 次年度の分掌長を担える教員や首席の候補を更に育てることができるか</p>	<p>(1) 今年度本校初任の 5 人が組織の長を務め学校の中軸を担った。次年度も引き続き継続予定。また、次の首席の候補もさらに力をつけてきている。(◎) また、次年度は担任 18 名中 14 名が本校初任者となる。</p>